Japan Lifeline

…for patient comfort.

2023年3月期
第1四半期決算説明資料

2022年7月29日

日本ライフライン株式会社

東証プライム市場：7575

Unauthorized copying prohibited.
Copyright © Japan Lifeline Co., Ltd. All rights reserved.

2023年3月期　第1四半期決算報告

今回より、エクセル・PDFでファクトシートを開示しております。
当社HP(https://www.jll.co.jp/investors/)からダウンロードできます。
併せて、ご覧ください。

Appendix.　会社概要（15ページ～）

第1四半期決算 連結サマリー

Japan Lifeline

（単位:百万円） ※百万円未満切捨	売上高		営業利益		四半期純利益	
1Q損益 ハイライト	12,969	YoY +356 (+2.8%)	2,707	YoY +387 (+16.7%)	1,946	YoY +243 (+14.3%)

✓ 前年同期と比べ新型コロナの影響は減少し、症例数は増加
✓ 自社製品の増収等が保険償還価格の改定等のマイナス影響を吸収し増益

品目別売上高 ハイライト

リズムディバイス　YoY ▲6.8%

↘
(−) 保険償還価格の引き下げ
(−) 市場競争激化

EP/アブレーション　YoY +7.3%

↗
(+) AF症例数の増加
(−) 保険償還価格の引き下げ

外科関連　YoY +15.8%

↑
(+) 緊急症例等の増加
(+) 新商品の順調な立ち上がり

消化器/PI*1　YoY ▲24.0%

↓
(−) Orsiroの大幅減

ガイダンス

✓ 連結業績予想：　変更なし　2022/5/11発表の通期業績予想を維持
✓ 保険償還価格改定の影響：　計画に織り込み済み
✓ 新型コロナの感染再拡大は不透明要因だが、計画の前提から大きく乖離することを見込まない

*1 前年までインターベンションと表記しておりましたが、当期より消化器/PIと改称しております

第1四半期実績　連結業績概況

（単位:百万円）	2023/3期 1Q	2023/3期 YoY	2023/3期 %	2022/3期 1Q
売上高	12,969	+356	+2.8%	12,612
売上総利益	7,458	+178	+2.5%	7,280
構成比	57.5%		▲0.2pt	57.7%
販管費	4,751	▲209	▲4.2%	4,960
構成比	36.6%		▲2.7Pt	39.3%
営業利益	2,707	+387	+16.7%	2,319
構成比	20.9%		+2.5pt	18.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,946	+243	+14.3%	1,702
構成比	15.0%		+1.5pt	13.5%
自社製品比率	54.6%		+3.2pt	51.4%

売上高　YoY 2.8% 増収

(+) 新型コロナ感染の沈静化に伴う症例数増

(−) 保険償還価格(NHI)の引き下げ

営業利益　YoY 16.7% 増益

(+) EP/アブレーションや外科関連の好調により自社製品比率が改善

(+) 前期に一時的な治験費用(290M)あり

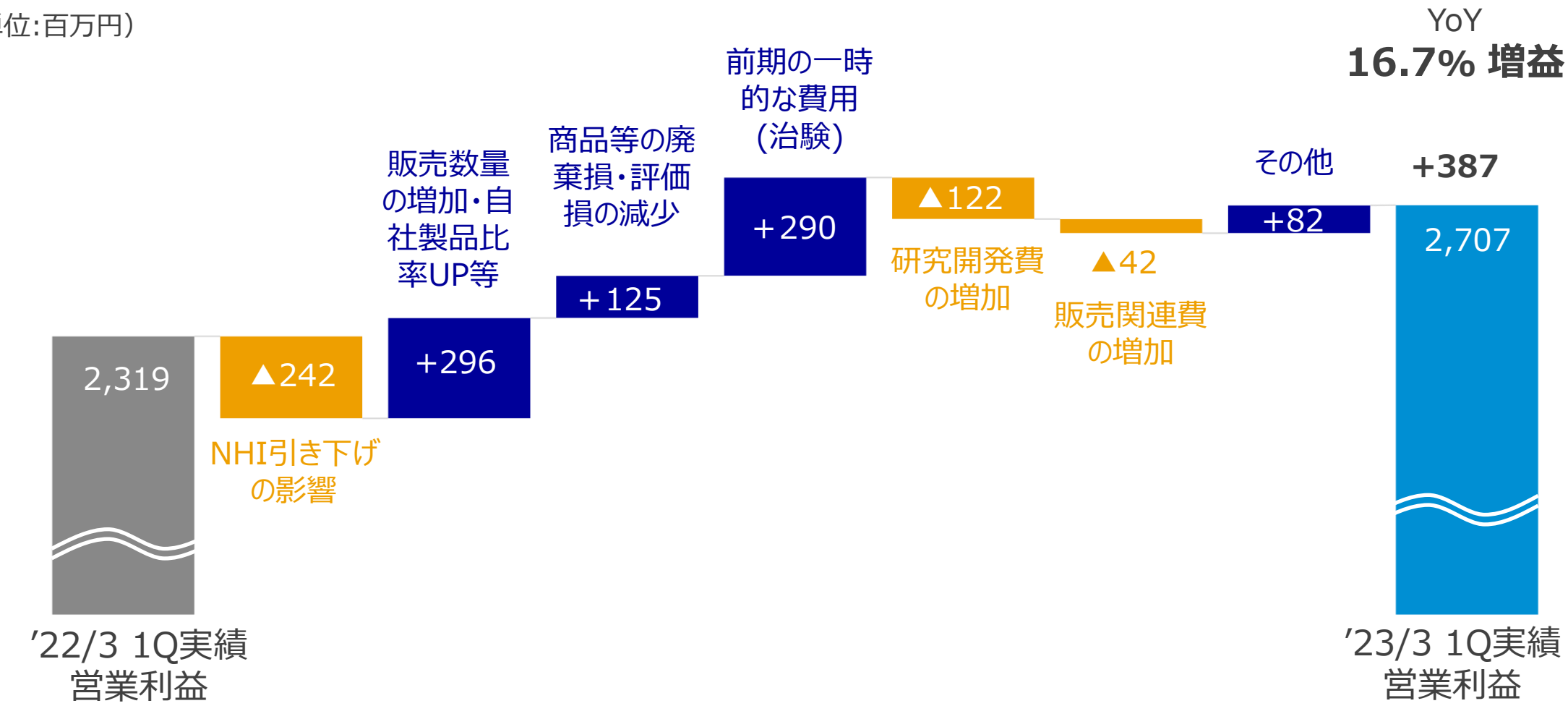
四半期純利益　YoY 14.3% 増益

(−) 前期に事業譲渡益(116M)あり

(−) 貸倒引当金繰入や自己株取得費用の発生

第1四半期実績　営業利益 増減分析

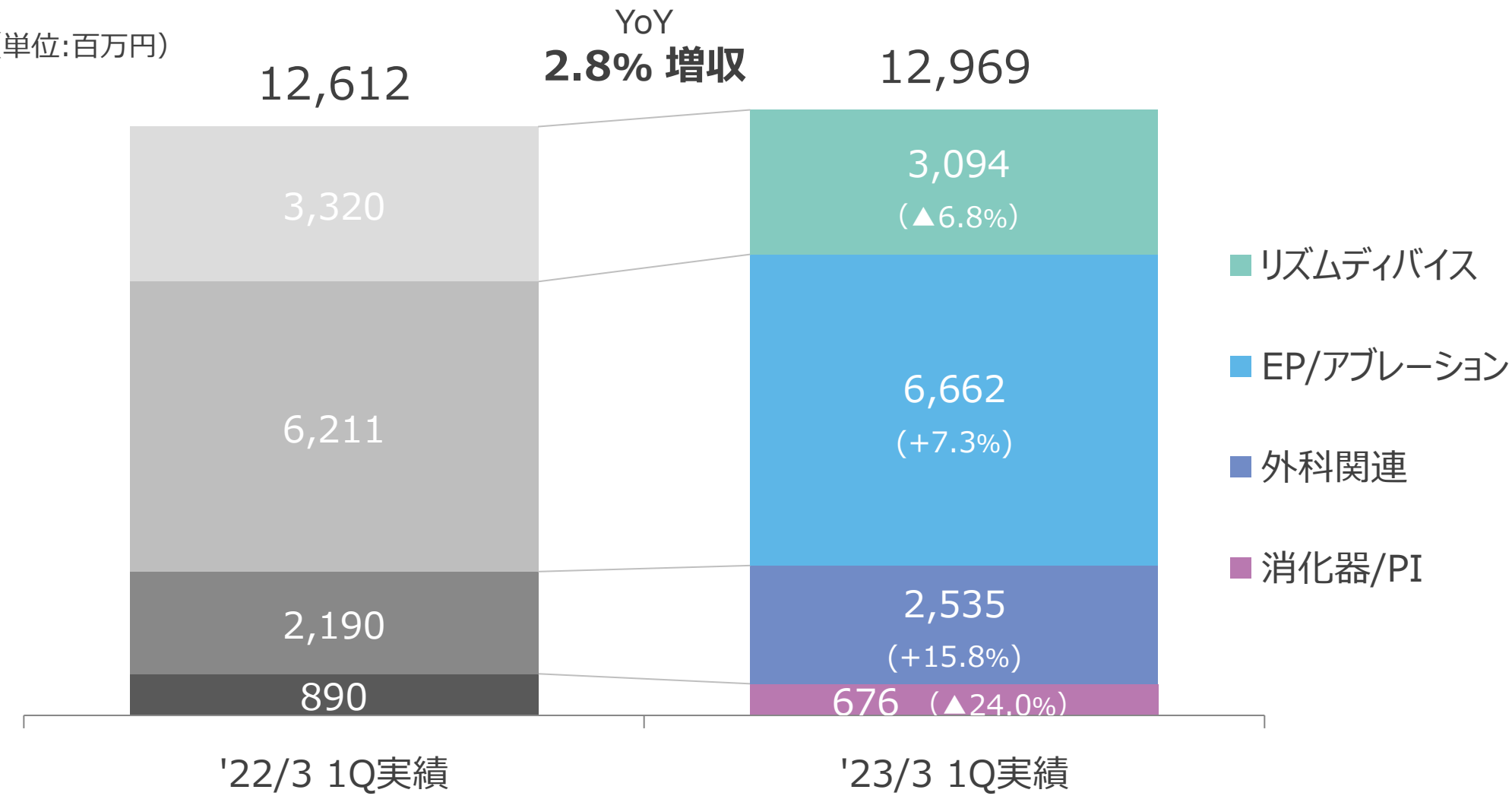
（単位:百万円）



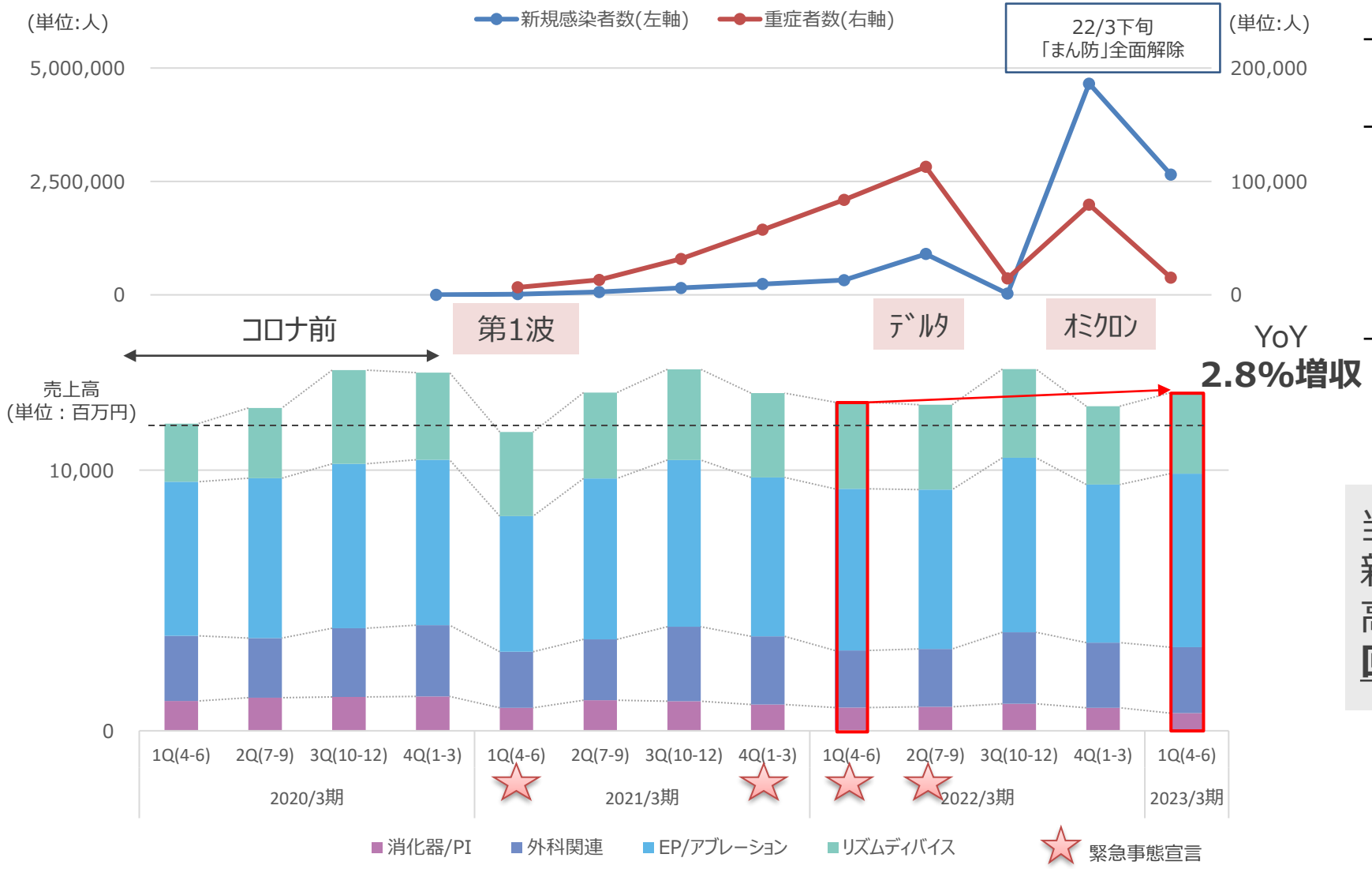
第1四半期実績　品目別売上高

Japan Lifeline

（単位:百万円）



コロナ禍における売上高の推移



	前期1Q 2021/4-6	当期1Q 2022/4-6
新規感染者数の傾向	増 加	減 少
行動規制	あり (緊急事態宣言)	なし

当期1Qは、前期1Qと比較すると新型コロナの影響は少なく、売上高は2020/3期の**コロナ前水準を上回っている**

第1四半期実績　リズムディバイス

（単位:百万円）	2023/3期		2022/3期
	1Q 実績	YoY	1Q 実績
① ペースメーカ関連	1,269	▲251 (▲16.6%)	1,520
② ICD関連	1,742	+35 (+2.1%)	1,706
③ その他*1	83	▲9 (▲10.0%)	92
リズムディバイス 計	3,094	▲225 (▲6.8%)	3,320

NHIの引き下げや競争激化が響く (YoY▲6.8%)

① NHIの引き下げや競争激化の影響を受ける
② S-ICDが軟調であったが、T-ICDは交換症例のシェアを伸ばし好調に推移

*1 AEDを含む

第1四半期実績　EP/アブレーション

（単位:百万円）	2023/3期		2022/3期
	1Q 実績	YoY	1Q 実績
① EPカテーテル	4,967	+464 (+10.3%)	4,502
② ABLカテーテル	321	+48 (+17.8%)	273
③ その他*1	1,374	▲61 (▲4.3%)	1,435
EP/アブレーション 計	6,662	+451 (+7.3%)	6,211

AF症例は想定超(YoY+10%程度)、NHI引き下げの影響があるも増収 (YoY+7.3%)

① BeeATやEsophastar等で6月に過去最高の販売本数を達成
② HeartLight X3の導入により大幅増収
　一方、部材不足により商品供給が遅延しており、計画は未達
③ RF Needleが、競合他社の新規参入の影響を受ける

*1 RF Needleやディフレクタブルシースを含む

第1四半期実績　外科関連

（単位:百万円）	2023/3期		2022/3期
	1Q 実績	YoY	1Q 実績
① 人工血管関連	2,499	+348 (+16.2%)	2,150
② その他*1	36	▲3 (▲8.6%)	39
外科関連 計	2,535	+345 (+15.8%)	2,190

待機症例の消化が進み緊急症例も増加、NHI改定の影響は僅少（YoY+15.8%）

① 人工血管、オープンステントグラフト：　症例増により好調に推移
　腹部ステントグラフト：　臨床研究の結果が好感され販売伸長。新商品Altoも順調に立ち上がる
② 塞栓用コイル：　腹部領域で販売を伸ばす。4月より脳血管領域向けにも販売を開始

*1 人工肺関連、生体弁を含む

第1四半期実績　消化器/PI

（単位:百万円）	2023/3期		2022/3期
	1Q 実績	YoY	1Q 実績
① 消化器関連	134	+46 (+53.7%)	87
② PI関連	541	▲260 (▲32.5%)	802
消化器/PI 計	676	▲214 (▲24.0%)	890

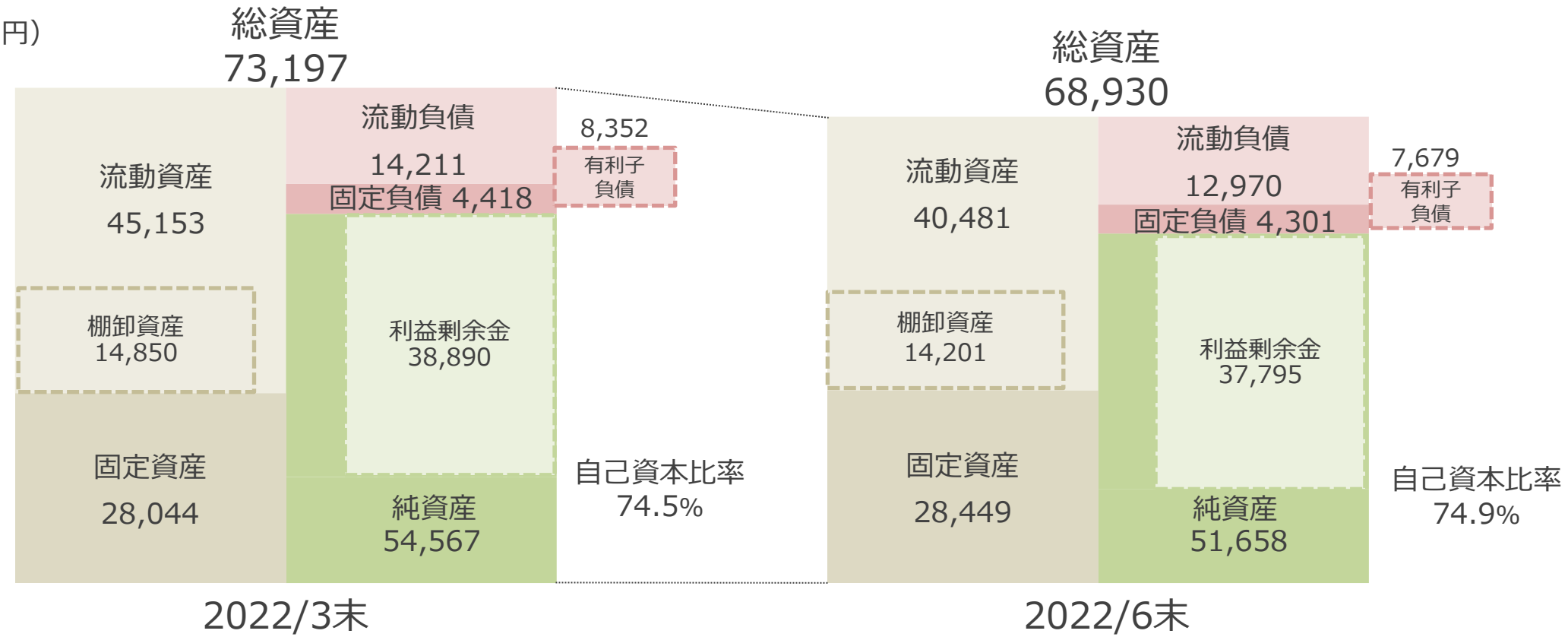
PI(インターベンション)から消化器へのシフトを継続 (YoY▲24.0%)

① 大腸ステント、胃・十二指腸ステント：　預託施設が増加し続伸
　肝癌ニードル：　KOL向けのセミナー等が奏功し、計画を上回る
　下期に胆膵関連の複数の自社製品を発売予定

② PI関連は、Orsiroが大幅な減収

第1四半期　連結貸借対照表

（単位:百万円）



- ✓ 流動資産：　法人税等及び配当金の支払により現金・預金が減少
- ✓ 棚卸資産：　Orsiro等の契約終了品で在庫の消化が進み減少
- ✓ 純資産　：　自己株式の取得により減少（取得した全数を7月に消却済）

(参考資料) 用語集

ページ	用 語 ・ 略 称	説 明	備 考
2	AF	Atrial Fibrillation　心房細動	
	PI	Percutaneous Intervention 経皮的インターベンション	
	Orsiro	薬剤溶出型冠動脈ステント	【仕入商品】
10	ICD	Implantable Cardioverter Defibrillator 植込み型の医療機器（植込み型除細動器）	【仕入商品】
	S-ICD	Subcutaneous Implantable Cardioverter Defibrillator 植込み型の医療機器（完全皮下植込み型除細動器）	【仕入商品】【オンリーワン】
	T-ICD	Transvenous Implantable Cardioverter Defibrillator 植込み型の医療機器（経静脈植込み型除細動器）	【仕入商品】
11	BeeAT	心腔内除細動カテーテル	【自社製品】【オンリーワン】
	Esophastar	食道温モニタリングカテーテル	【自社製品】
	HeartLight X3	内視鏡レーザーアブレーションカテーテル	【仕入商品】【オンリーワン】
	RF Needle	高周波心房中隔穿刺針	【仕入商品】
12	Alto	腹部用ステントグラフト	【仕入商品】
13	KOL	Key Opinion Leader 販売促進に影響力を持つ医師などの専門家	

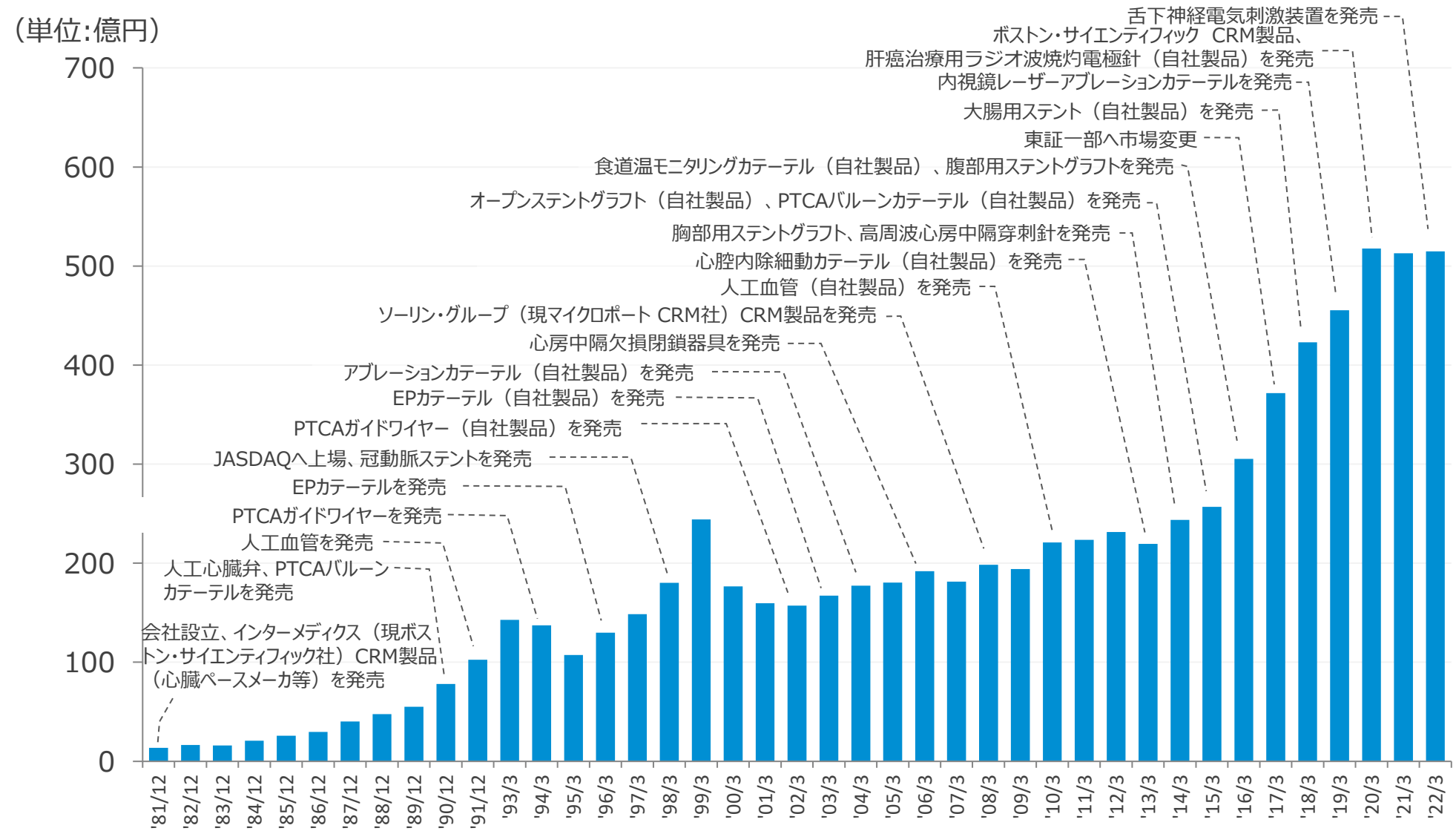
2023年3月期　第1四半期決算報告

Appendix.　会社概要

会社概要

商号	日本ライフライン株式会社
代表者	代表取締役社長　鈴木啓介
本社	東京都品川区東品川2-2-20　天王洲オーシャンスクエア
設立	1981年2月6日
上場市場	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	7575
事業内容	医療用機器の製造、販売、輸出および輸入販売
資本金	2,115百万円
決算期	3月31日
従業員数	連結1,205名/単体984名（2022年3月31日 現在）
事業所	営業拠点48ヶ所、羽田ロジスティックスセンター、関西ロジスティックスセンター、 研究開発統括部、戸田ファクトリー、小山ファクトリー、市原ファクトリー、 天王洲ACCADEMIA（研修センター）（2022年3月31日 現在）
連結子会社	SYNEXMED（HONG KONG）LTD.、JLL Shenzhen Co., Ltd. （中国語社名：心宜医疗器械（深圳）有限公司）、JLL Malaysia Sdn.Bhd.

当社沿革と売上高推移


（単位:億円）
700
600
500
400
300
200
100
0
会社設立、インターメディクス（現ボストン・サイエンティフィック社）CRM製品（心臓ペースメーカ等）を発売
人工心臓弁、PTCAバルーンカテーテルを発売
人工血管を発売
PTCAガイドワイヤーを発売
EPカテーテルを発売
JASDAQへ上場、冠動脈ステントを発売
PTCAガイドワイヤー（自社製品）を発売
EPカテーテル（自社製品）を発売
アブレーションカテーテル（自社製品）を発売
心房中隔欠損閉鎖器具を発売
ソーリン・グループ（現マイクロポート CRM社）CRM製品を発売
人工血管（自社製品）を発売
心腔内除細動カテーテル（自社製品）を発売
胸部用ステントグラフト、高周波心房中隔穿刺針を発売
オープンステントグラフト（自社製品）、PTCAバルーンカテーテル（自社製品）を発売
食道温モニタリングカテーテル（自社製品）、腹部用ステントグラフトを発売
東証一部へ市場変更
大腸用ステント（自社製品）を発売
内視鏡レーザーアブレーションカテーテルを発売
肝癌治療用ラジオ波焼灼電極針（自社製品）を発売
ボストン・サイエンティフィック CRM製品、
舌下神経電気刺激装置を発売
'81/12
'82/12
'83/12
'84/12
'85/12
'86/12
'87/12
'88/12
'89/12
'90/12
'91/12
'93/3
'94/3
'95/3
'96/3
'97/3
'98/3
'99/3
'00/3
'01/3
'02/3
'03/3
'04/3
'05/3
'06/3
'07/3
'08/3
'09/3
'10/3
'11/3
'12/3
'13/3
'14/3
'15/3
'16/3
'17/3
'18/3
'19/3
'20/3
'21/3
'22/3

事業領域

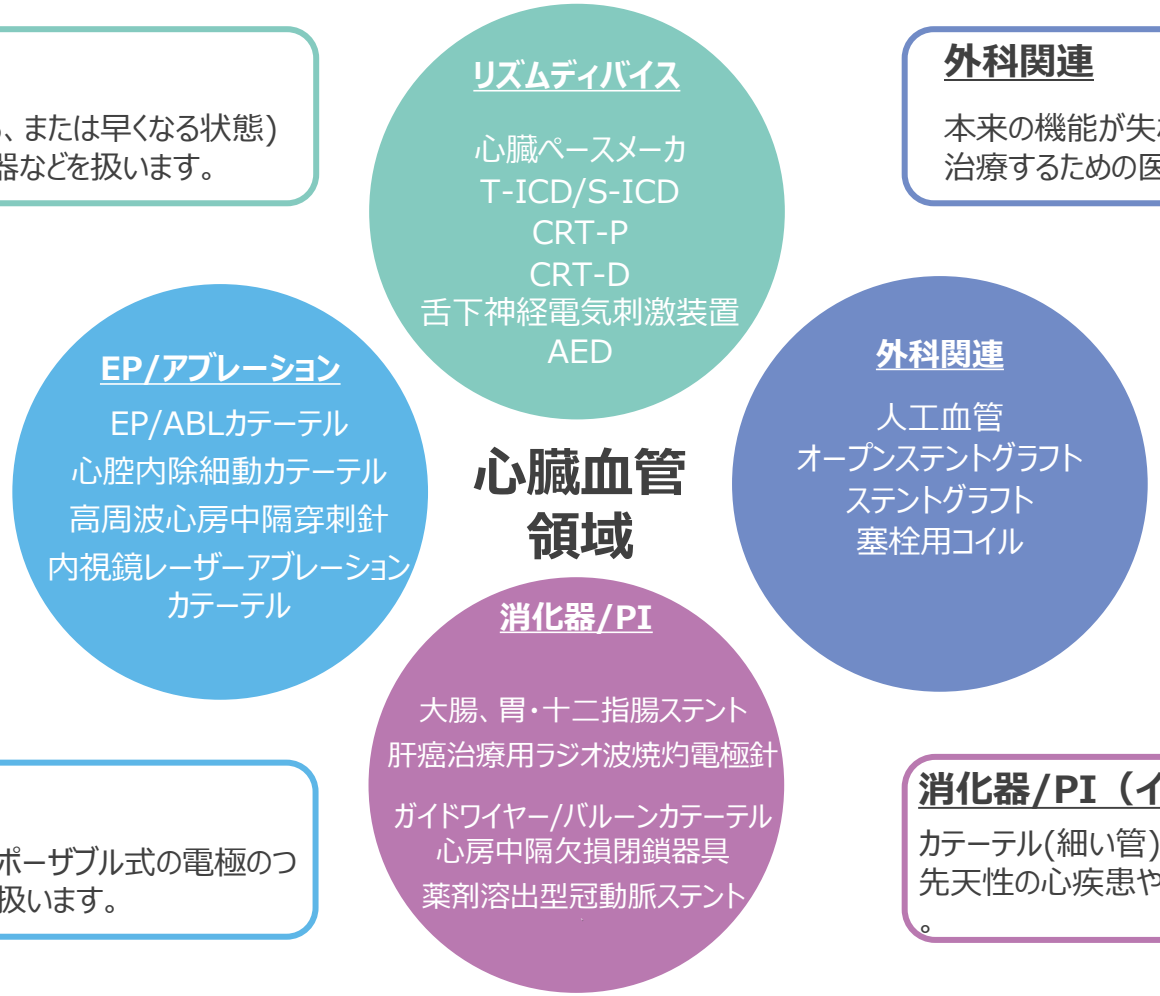
当社は創業以来、不整脈や心筋梗塞等の心疾患を治療するための医療機器を扱っております。
事業領域はリズムディバイス、EP/アブレーション、外科関連、消化器/PIの4つに大別されます。

リズムディバイス

不整脈(心臓の拍動が正常よりも遅くなる、または早くなる状態)を治療する主に体内植込み型の医療機器などを扱います。

外科関連

本来の機能が失われてしまった血管を人工の器官に置き換え、治療するための医療機器を扱います。



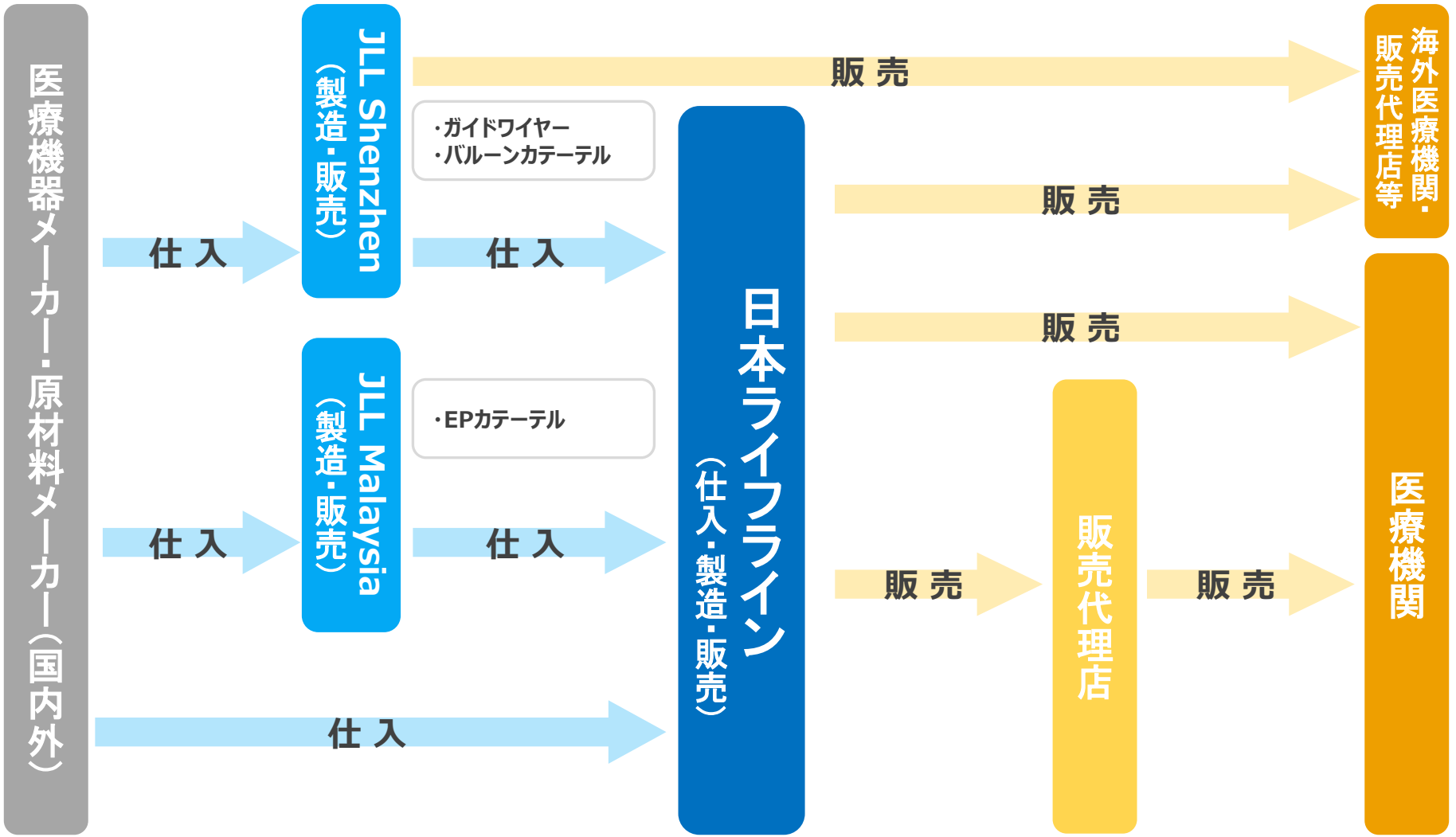
EP/アブレーション

不整脈の検査や治療を行うための、ディスポーザブル式の電極のついたカテーテル(細い管)などの医療機器を扱います。

消化器/PI（インターベンション）

カテーテル(細い管)を皮膚を通して血管内に挿入し、心筋梗塞、先天性の心疾患や消化器疾患等を治療する医療機器を扱います。

事業の系統図


医療機器メーカー・原材料メーカー（国内外）
JLL Shenzhen（製造・販売）
JLL Malaysia（製造・販売）
・ガイドワイヤー
・バルーンカテーテル
・EPカテーテル
仕 入
仕 入
仕 入
仕 入
日本ライフライン（仕入・製造・販売）
販 売
販 売
販 売
販 売
販 売
販売代理店
海外医療機関・販売代理店等
医療機関

商品紹介 リズムディバイス

Japan Lifeline

心臓ペースメーカ

（Boston Scientific社製）

心臓の拍動が正常よりも遅くなる不整脈(徐脈)に対して、人工的に電気刺激を与えることで拍動を保ちます。

T-ICD (経静脈植込み型除細動器)

（Boston Scientific社製）

心臓の拍動が異常に早まる不整脈(頻脈)のうち、致死性の不整脈である心室細動の発生を検知し、電気ショックを与えることで、拍動を正常な状態に戻します。

CRT-P (両心室心臓ペースメーカ)

（Boston Scientific社製）

重症心不全に対して、心臓の左右両方の心室に電気刺激を与えることで、心臓の同期不全を整えポンプ機能を改善します。

S-ICD (完全皮下植込み型除細動器)

（Boston Scientific社製）

T-ICDは静脈を介し心臓内にリードを留置するのに対し、S-ICDは全てのシステムを皮下に植込むことで血管内や心臓へ異物が留置されません。

CRT-D（除細動機能付き両心室ペースメーカ）（Boston Scientific社製）

両心室心臓ペースメーカの機能に加え除細動機能も有しており、致死性の不整脈の発生時は、本体から電気刺激を心臓内に与え治療を行います。

商品紹介 EP/アブレーション

Japan Lifeline

アブレーションカテーテル

（自社製品）

頻脈の原因となる心臓内の異常な電気刺激の経路を、カテーテル先端部の電極から流す高周波電流で焼き切ることにより治療します。

EP（電気生理用）カテーテル

（自社製品）

不整脈の診断や治療方法の適応を判断するための検査に用いられます。カテーテル先端に電極がついており、心臓内の電位を測定したり、不整脈を誘発させることで原因を特定します。

心腔内除細動カテーテル

（自社製品）

アブレーション治療の際に発生する心房細動に対し、心腔内で除細動を行うことにより、低侵襲に心房細動を停止させます。またEPカテーテルとしての診断機能も合わせ持っています。

内視鏡レーザーアブレーションカテーテル

（CardioFocus社製）

バルーン内部からレーザーを照射し、頻脈の原因となる部位を焼き切り治療します。カテーテル内部の内視鏡により、正確な留置および焼灼が可能です。

高周波心房中隔穿刺針

（BAYLIS MEDICAL社製）

アブレーション治療などの際に、左右の心房の間にある壁（心房中隔）に、カテーテルを通すための穴を高周波により開ける際に使用します。

商品紹介 外科関連

Japan Lifeline

人工血管

（自社製品）

開胸手術により動脈瘤などで痛んだ血管を切り取り、人工血管に置き換え治療します。

オープンステントグラフト

（自社製品）

大動脈に挿入し拡張することにより血管に固定します。片側の吻合が不要なため、開胸手術を行うものの低侵襲に大動脈瘤の治療を行います。

ステントグラフト

(ENDOLOGIX社製)

外科手術を行うことなく、足の付け根の血管からカテーテルを通じて、治療部位に留置し大動脈瘤を治療します。

塞栓用コイル

(Wallaby Medical社製)

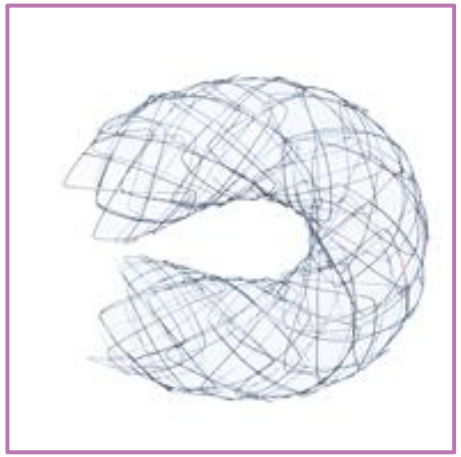
脳動脈瘤内に塞栓用コイルを留置することで血液の流入を遮断し、瘤の破裂(くも膜下出血)を防ぎます。

商品紹介 消化器/PI（1/2）

Japan Lifeline

大腸ステント

（自社製品）



癌により閉塞した大腸を押し広げるために用いられます。細いガイドワイヤーで閉塞部を通過させた後、これに沿ってステント留置器具を通過させステントを展開します。症状を大きく緩和させ、QOLの向上に繋がります。

胃・十二指腸ステント

（自社製品）

癌により閉塞した胃・十二指腸を押し広げるために用いられます。ガイドワイヤーを用いて閉塞部を通過させた後、ステントを展開し閉塞部位を押し広げ、狭窄を改善します。

肝癌治療用ラジオ波焼灼システム

（自社製品）

超音波(エコー)やCTで観察しながら針状の電極を経皮的に肝癌の病変組織へ挿入し、電極周囲にラジオ波による熱を発生させ病変を焼灼し治療します。

商品紹介 消化器/PI（2/2）

Japan Lifeline

バルーンカテーテル

（自社製品）

心臓の筋肉に酸素や栄養を送る血管(冠動脈)が詰まることが原因となる心筋梗塞や狭心症の治療に用いられます。血管の詰まった部分で風船(バルーン)を拡張させ、再度血流を確保します。

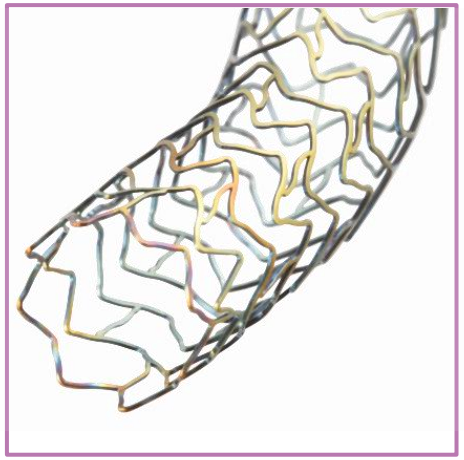
ガイドワイヤー

（自社製品）

バルーンカテーテルを血管の詰まった部分に導くために用いられます。ガイドワイヤーを血管の詰まった部分の先まで通過させ、これに沿ってバルーンカテーテルを進めます。

薬剤溶出型冠動脈ステント

(BIOTRONIK社製)



血管の詰まった部分を風船(バルーン)で拡張させた後に留置し、再び詰まるのを防ぎます。また塗布された薬剤も再発防止に効果があります。

心房中隔欠損閉鎖器具

(Occlutech社製)

先天的に心臓の左右の心房を隔てる壁に穴が開いている疾患(心房中隔欠損症)を、外科手術を行うことなくカテーテルを用いて閉鎖栓という円盤状の器具で塞ぎ治療します。

開発生産拠点

研究開発

研究開発統括部（埼玉県戸田市）

Medical Technology Park North Square

（2018/04～）

中核工場

戸田ファクトリー（埼玉県戸田市）

Medical Technology Park South Square

（2012/01～）

量産対応

小山ファクトリー（栃木県小山市）

（2014/10～）

血管・OSGの開発・生産

市原ファクトリー（千葉県市原市）

（2011/01～）

海外工場 ①

深圳工場（中国深圳市）

JLL Shenzhen Co., Ltd.

（2010/10～）

海外工場 ②

マレーシア工場（マレーシアペナン州）

JLL Malaysia Sdn.Bhd.

（2020/06～）

ご注意事項

本資料の記載内容のうち、歴史的事実でない事項は、当社の将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。特に、商品や製品の導入に関係する、治験および薬事承認に係る事項、また発売時期につきましては、過去の経験や入手可能な情報から得られた当社の予測であります。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本資料記載の見通しと異なる可能性がありますので、これらの見通しに過度に依存されないようお願いいたします。

本資料に関するお問い合わせ先

日本ライフライン株式会社
経営企画部
TEL:03-6711-5214
E-Mail:ir@jll.co.jp
URL:https://www.jll.co.jp